

1 甲陽園駅／甲陽園本庄町

甲陽園の住宅地は大正7(1918)年から開発され、阪急甲陽線は大正13(1924)年に開通しました。駅舎は、昔の面影が残る平屋建ての駅です。平成20(2008)年に発生した構内での脱線事故をきっかけに、ホームの改修工事が行われました。改札口正面にあったタイル張のレトロな水飲み場が撤去されたのが惜しまれます。



2 旧カフェパウリスタ／甲陽園本庄町

甲陽園駅周辺には、東亜キネマ甲陽撮影所や甲陽遊園地が全盛期だった名残が見られます。このカフェ跡も当時の面影が残されている建物のひとつです。大正モダニズムの拠点だった浅草のカフェパウリスタの関西店で、当時は、地下1階にビリヤード場、1階にカフェ、その一角にタバコ屋、2階が土地会社の事務所として使われていました。現在は住居として使われています。



3 大池から甲山を望む／甲陽園本庄町

甲陽園の開発の際に、大池の浅地部分が埋め立てられグラウンドや歌舞練場、動物園などのある甲陽遊園地が作られました。その後、遊園地が閉鎖され昭和43(1968)年にさらにそのうちの半分が埋め立てられ甲陽園小学校が建てられました。手前には大池、その向こうに景観重点地区に指定された甲陽園目神山町の住宅、遠景に甲山が見えます。三段構えの構図に、枠をはめれば絵画のようです。



4 水道路／神原

満池谷墓地の西側にある踏切に「神戸水道路」という看板がさりげなくとりつけられています。これは、神戸市北区にある千苺貯水池から上ヶ原浄水場を経て神戸市の奥平野浄水場まで運んでいる送水管(総延長約19km)が、この地下に通っていることを示しています。平成18(2006)年、送水管が壊れ、新甲陽の六叉路が浸水したことで、その存在を市民が改めて知るところとなりました。



10 みたらし通り／中屋町～六軒町

みたらし通りは、御手洗(みたらし)川沿いに国道171号～新甲陽町を結ぶバス道で、両側にはソメイヨシノの古木が続く歩行者専用道路が設けられています。桜の名所としては夙川にひけをとりません。このMAPで紹介するコースのゴールは廣田神社ですが、西宮のシンボル、甲山を望みながら30分ほど歩くとスタートの甲陽園駅に戻ることができます。



9 廣田神社／大社町

廣田神社は日本書紀にも登場する由緒ある神社です。隣接する広田山公園には2万本ものコバノミツバツツジ群落があり、兵庫県の指定天然記念物となっています。現在、生物多様性に配慮した公園づくりがすすめられています。また、「廣田神社周辺地区都市再生整備計画」による道路整備が平成26(2014)年に完了し、旧参道が生まれ変わりました。国道171号～みたらし通りの区間が名称募集により「廣田参道筋」と名づけられました。



8 西宮震災記念碑公園／奥畑

阪神・淡路大震災の教訓を風化させないためにニテコ池の東側につくられた公園です。敷地内には震災犠牲者追悼の碑と戦没者慰霊塔が建てられています。また、震災被害や復興の様子を知らせる石版も設置されています。毎年1月17日前後には、近隣で被害を受けた大社中学校と上ヶ原中学校の生徒が、合同で清掃作業を行う姿が見られます。



7 ニテコ池貯水池／満池谷町

西宮(戎)神社の大練塀に真土を運び出した跡地に綿畠の灌漑用貯水池として整備されました。野坂昭如氏の小説「火垂るの墓」で清太と節子が住み着いた洞穴は、池の南東の土手あたりではないかと言われています。(写真)池の真ん中にある道路から北を上げれば甲山が一望できます。松下手幸之助氏が、この景色と東側に見える森を気に入り移り住みました。今でも邸宅の一部が残されています。



5 満池谷累層 (まんちだにるいそう)／神原

西宮市北西部は階段状の段丘が標高70mまで広がっており、段丘の下のほうに、この満池谷累層があります。ここに寒地にしか生えない植物の遺体(と言うのですね、植物でも)が発見されたことから、氷河期と亜熱帯の気候が繰り返されていたことがわかりました。立入禁止の岩肌を遠目に見ながら、氷河期を想像してみたいかたがでしょうか。



6 名次神社・名次山／名次町

廣田神社の摂社(西方を守る神)で、祭神は名次大神(水分神=雨乞いに霊験有り)です。万葉集に高市連黒人が詠んだ歌があります。(表面に紹介)名次山は、「摂津名所図会」に名次岳として解説があり、古くから景勝地だったようです。平成23(2011)年から行われていた文化庁の調査で、市内の名勝地7ヶ所のうちの1つに選ばれました。

